

平成 27 年度

病虫害発生予察特殊報 第 1 号

平成 27 年 5 月 28 日
茨城県病虫害防除所
TEL : 029-227-2445

ニラ褐色葉枯病の発生について

病 害 名 : ニラ褐色葉枯病

病原菌名 : *Stemphylium herbarum*

発生作物 : ニラ

1. 発生確認の経過及び県外での発生状況

- (1) 平成 25 年 4 月中旬, 県央地域の露地ニラ圃場において, 長径 2~6cm 程度の紡錘形で淡褐色~淡紫色の葉枯症状が確認された (写真 1~3)。本症状から病原菌による病害が疑われたため, 病虫害防除所で同定した結果, 本県では未発生の *S. herbarum* によるニラ褐色葉枯病と判明した。なお, 本病の病原菌は *S. botryosum* とされてきたが, 黒瀬らにより *S. herbarum* と再同定された (黒瀬ら, 2014 ; Kurose et al. 2015(in press))。
- (2) 平成 26 年は本病の発生を認めていない。
- (3) 本病は, 平成 19 年に北海道で発生が確認されている。

2. 病徴

病徴は, はじめ葉の表面のみに生じるが後に裏面まで達する。紡錘形の病斑 (写真 2) が葉幅全体に広がると, さらに葉先に向けて進展し, 淡褐色~淡紫色に変色して枯れる (写真 3)。古い病斑では中央部に褐色の分生子を噴出する。症状が進展した葉では葉身全体が枯死する。

3. 病原菌の特徴と発生生態

糸状菌の一種で不完全菌類に属する。分生子の大きさは平均 $36.5 \times 21.9 \mu\text{m}$ (縦横比 1.4~2.5) で分生子柄の先端に単生し, 褐色~淡褐色の俵型で, 横 2~4, 縦 1~2 の隔壁を有し, 中央の横隔壁でやや強くくびれる。また, 分生子の表面にいぼ状突起を有する。分生子柄は褐色~無色で, 先端部が膨潤する。(写真 4)

発生生態については不明な点が多いが, 春先の降霜等により葉に生じた傷から本菌が感染すると考えられる。

4. 防除対策

- (1) 被害葉は伝染源になるので, できるだけ地上部を刈り取り, 圃場外に持ち出して土中深く埋める等, 適切に処分する。
- (2) 現在のところ, 本病に対して登録のある薬剤はない。

5. 引用文献

黒瀬ら(2014)日本産 *Stemphylium* 属菌の分子系統解析とシュッコンアスター斑点病, ニラ褐色葉枯病およびアスパラガス斑点病の病原再同定. 日植病報 81(1) : 100(講要)

Kurose et al. (2015) Taxonomic re-examination of several Japanese *Stemphylium* strains based on morphological and molecular phylogenetic analyses. J. Gen. Plant Pathol. 81(in press).



写真1 発病圃場



写真2 紡錘形の病斑



写真3 葉全体に広がった病斑



写真4 病原菌の分生子及び分生子柄